

## 普及活動情勢報告（平成29年9月分）

幡多農業振興センター農業改良普及課

### 情勢報告

#### 子どもたちとジャガイモ定植！・・・宿毛4Hクラブ・・・



9月4日、宿毛4Hクラブ員8名は、宿毛市二宮のクラブ員ほ場に宿毛市立二宮保育園児22名を招いてジャガイモ定植を行いました。

クラブ員からは植え穴の掘り方や覆土の仕方など、ジャガイモを植える際の注意点を説明し、園児と一緒にジャガイモを定植しました。園児からは「ちゃんと土をかぶせたら大きくなる？」といった質問が聞かれました。

農業改良普及課は、今後も子ども達に農業を学ぶ場が作れるよう、地域の若手農業者の活動を支援していきます。

#### イチゴ育苗期現地検討会の開催・・・JA高知はた宿毛支所イチゴ部会・・・



8月21日、イチゴ生産者11名が参加して、JA高知はた宿毛支所管内の生産者全戸の育苗ほ場全戸を回る現地検討会を開催しました。

農業改良普及課からは、高温期における炭そ病など重要病害の防除対策や育苗管理方法についての説明を行いました。また、宿毛支所イチゴ部会で試験的に栽培している新品種「恋みのり」について、生産者同士で活発な意見交換が行われました。

農業改良普及課は、今後も定期的に現地検討会を開催し、時期時応じた栽培管理方法の指導を行っていきます。

青果率向上に向けて・・・JA 三原支所柚子部会臨時総会・目なし会・・・



8月28日、三原村農村構造改善センターにおいて臨時総会、出荷目慣らし会を開催し、生産者、関係機関の合計28名が参加しました。

農業改良普及課からは、青果出荷量の増加に向けて重要病害虫や腐敗果対策などについて説明し、JAからは加工青玉の規格についての説明がありました。また選果施設の運営管理を委託されている農業公社から、今年の黄玉や加工用出荷に関するルール変更について説明がありました。

参加者はルールの変更により、青果出荷が求められていることを自覚しており、今後の管理に向け意欲の高まりを感じました。

農業改良普及課は、今後出荷手数料の改正に向けて、村、農業公社、JAとの協議が効率的に行われるようコーディネートしていきます。

農薬と土着天敵を賢く使おう！・・・JA 高知はた宿毛支所オクラ部会若手生産者学習会・・・



8月29日、JA高知はた宿毛支所で害虫防除について講習会を開催し、若手オクラ生産者8名が参加しました。

講師である病害虫の専門技術員からは、農薬の作用機構と害虫の抵抗性発現のメカニズム、農薬のローテーション散布の重要性、アブラムシの土着天敵の有効性とバンカー植物としてのソルゴー障壁について説明がありました。

生産者からは「IRAC コードはどこで知ることができるか?」「ソルゴー以外に有望なバンカー作物はあるか?」といった質問があり、関心の高まりを感じました。

農業改良普及課は、三尺ソルゴーをインセクタリープランツとしたほ場でのアブラムシ類と土着天敵の発生状況を調査しています。今後は、その調査結果を踏まえ、環境に配慮したオクラ栽培に向けて支援していきます。

### 労務管理・雇用管理を学ぶ・・・第2回農業基礎講座の開催・・・



8月31日、第2回農業基礎講座を開催し、21名の参加がありました。今回は、幡多管内の農業研修生と、はちきん農業大学の受講生、幡多地区集落営農法人連絡協議会の法人組織を対象に労務管理と雇用管理について合同研修を行いました。

労務管理については社会保険労務士の浜田氏、雇用管理については管内で大規模経営をされているファームやまもとの山本氏にご講演いただきました。また、講演後アシストスーツについての説明や、実演なども実施しました。

参加者からは、雇用する際の指導方法や、考え方などについて質問が出され、関心の高さがうかがえました。

農業改良普及課では、今後も栽培管理や経営管理についての研修内容を充実させていきます。

### 宿毛園芸産地の維持・発展に向けて！・・・JA高知はた宿毛支所園芸部総会・・・



9月1日、JA高知はた宿毛支所で園芸部総会を開催し、生産者20名が出席しました。

農業改良普及課からは、ハチハチフロアブル、乳剤使用における注意やクロピラリドに関する情報提供、環境制御機器導入に関わる補助事業について説明を行い、併せて担い手に関わるアンケートを行いました。また、生産者からは収入保険制度に関しての質問など、関係機関に対しての質問が活発に出ました。

農業改良普及課は、今後も各部会への情報提供などを行い、産地の維持・発展に向けて活動していきます。

### GAPに取り組もう！・・・JA高知はた三崎支所園芸部・・・



9月5日、土佐清水市のキュウリ生産者11名が参加し、黒潮町大方のキュウリ選果機の視察を行いました。

農業改良普及課からは、GAPに取り組むことの意義やメリット、取り組み事例について説明し、ガイドライン準拠GAP実践を促しました。またGAP認知度についてのアンケートも行いました。JA担当者からは選果機について説明があり、生産者からは等階級による選果、出荷方法の違いなどについて質問があり、関心の高さを感じました。

農業改良普及課は、農業生産活動の持続性確保のために、GAPへの取り組みを推進していきます。

## 土佐文旦の若手後継者と女性農業者の技術向上

### ・・・第2回基礎講座及び第1回女性勉強会組織設立協議・・・



9月7日、宿毛市宇須々木公民館で講習会を開催し、若手後継者9名、女性4名、合計13名が参加しました。

農業改良普及課からは、病害虫の生理生態を基にした防除方法や、露地果樹における生産環境整備などについて講習を行いました。また講習会終了後に、参加女性と「女性勉強組織」の設立に向け意見交換を行いました。

意見交換では、「男女混合の勉強会で構わないので、女性が参加しやすい配慮をして欲しい」という意見が出されました。

農業改良普及課は、女性が講習会に参加しやすい環境整備について検討していきます。

## キュウリ苗の生育状況の確認へ・・・JA高知はた園芸研究会キュウリ部・・・



9月7日、幡多地区キュウリ生産者、関係機関の計8名で愛媛県東温市にある(株)村田農場と四万十町にある四万十あおぞらファーム(株)へ、キュウリ苗の育苗状況を確認に行きました。

農業改良普及課は、苗の生育状況を観察し、栽培担当者と栽培方法について意見交換を行いました。生産者は、かん水管理や温度管理の方法について質問し、苗や根張りの状態を見るなど、熱心に育苗状況を確認していました。

農業改良普及課は、今後も視察などの機会を増やして、生産者の栽培意欲・技術の向上を図っていきます。

## クリの多収栽培に向けて・・・JA西土佐支所栗部会総会・・・



9月20日、JA西土佐支所で栗部会総会が開催され、生産者10名が参加しました。総会終了後には、目慣らし会、栽培講習会を実施しました。

農業改良普及課からは、クリの収量増加に向けて、夏期の高温乾燥対策として園地の雑草管理、台風対策としての剪定、樹勢に見合った施肥調節と結果母枝の配置など、幅広い管理技術が必要なことを説明しました。また、実証ほの着実調査結果をもとに400kg以上/10aの高収量も可能なことを説明しました。

参加者は、今までに培った技術に自信を持ち、新たな知見への関心が高まるなど、栽培意欲の高まりを感じました。

農業改良普及課は、今後も定期的に栽培講習会などを開催し、増収・所得向上に向けて支援していきます。

